

## 事業報告

17年度分はここを  
クリックしてご覧下さい

平成18年度(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)の営業の概況についてご報告申し上げます。

当期の日本経済は、工業生産の好調に支えられた設備投資の増加、雇用情勢の改善などにより「緩やかな改善」が続きました。個人消費についても雇用、所得環境の改善から年間を通して持ち直しの兆しとなっています。とりわけ、東海地域は活発な生産活動を背景に個人消費にも改善が見られるなど景気回復の全国的原動力となっています。

このような経営環境のもと、当社では18年2月から6月まで100日間(18年度内は65日間)にわたって営業を休止し、開業以来初めての大規模な総合整備を進め18年6月14日にリニューアルオープンを行いました。この総合整備によって名古屋テレビ塔のイメージも一新し、文字通りの「新しく生まれ変わったテレビ塔」として活動を始めることとなりました。久屋大通公園と連動する1階のタワースクエアでの賑わいは冬場の厳しさはあったものの都市公園の賑わいを取り戻すきっかけとなっています。また、市民のためのタワーステージ、パークギャラリーの設置、魅力あるテナント誘致など塔内施設につきまして劇的なイメージ刷新に取り組んでまいりました。秋から年末にかけては、「展望の日」(10月1日)をきっかけとして東海タワークイズラリー、デザイナーズウィーク in 名古屋、ナゴヤコレクション in ヌーディカム、クリスマスにはキャンドルウィーク、キャンドルコンサートなど多彩なイベントを集中的に開催しました。この結果、当期における有料入場人員は254,448人(前年に比べ37.4%増)となりました。なお、リニューアルオープン以降(平成18年6月14日から19年3月31日まで)の有料入場人員は240,442人(前年に比べ71.3%増)となりました。

これにより、当期における営業収益は294,743,432円(前年に比べ31.9%増)、営業費用は262,220,881円(前年に比べ18.0%増)となりました。したがって、営業利益は32,522,551円(前年営業利益1,215,509円)となり、税引き後の当期利益は16,335,062円(前年当期損失185,094,949円)となりました。株主の皆様には誠に心苦しい限りでございますが、前期に引き続き今期も無配とさせていただきますので、ご理解の上、ご了承を賜りますようお願い申し上げます。

名古屋テレビ塔は18年度から抜本的な再建計画に着手いたしました。21世紀に再び魅力あるテレビ塔とするため、久屋大通公園の賑わいの創生、テレビ塔の新しい活用、市民へのサービスの強化などの事業を積極的に進め、そのなかで名古屋テレビ塔株式会社の存立基盤の整備を進めてまいります。一方、テレビ電波の送信塔としての基本的な使命につきましては本年度も開業以来の無事故を継続することができました。引き続き、送信設備のきめ細かい巡回点検や塔内外の監視体制の強化などにより、一層の事故防止策と安全対策を進めてまいります。また、平成18年度からは将来計画検討会を立ちあげ、平成23年に予定されているアナログ放送休止以降の名古屋テレビ塔のあり方について検討を進めることとしています。19年度は「名古屋テレビ塔の将来を掴む」5か年計画の2年度としましてテレビ塔誕生の精神に立ち返り、役職員一同心新たに社業の継続と発展に専念いたす所存でございます。株主の皆様におかれましても、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。